

# 所 信 表 明

平成28年10月18日

豊能町長 池 田 勇 夫

本日、豊能町議会臨時会の開会にあたりまして、町長就任後、初めての議会でありますので、議員並びに住民の皆さまに今後の町政運営における私の所信の一端を述べさせていただきます。

まず、はじめに、このたびのダイオキシン類汚染物の処理を巡り、豊能町・能勢町の住民の皆さまはもちろんのこと神戸市並びに近隣自治体の皆さまにまで、大変なご心配とご迷惑をお掛けいたしましたことに深くお詫びを申し上げます。

さて、私は「豊能 再始動」のスローガンを掲げ、ダイオキシン問題を何が何でも解決させないと町制40周年を迎えようとする豊能町に未来はないという強い危機感をもち、三度<sup>みたび</sup>の立候補を決意して、町長選挙に臨みました。その結果、住民の皆さまの温かいご支援ご支持によりまして再度、私「池田勇夫」に豊能町の未来を託すというご判断をいただきました。改めましてそのご支持に感謝申し上げますとともに、町長という職責の重さに身の引き締まる思いでございます。

それでは、私が皆さまにお約束いたします豊能町のまちづくりに向けた基本政策について、その決意と考えを述べさせていただきます。美辞麗句でなく本音で住民の皆さまに私の考えをお伝えし、身の

丈にあった行政運営をしてまいりたいと考えております。

所信表明をするにあたって、豊能町行政の信頼を取り戻すために私が掲げる「8つの約束」を基本に、今まで4年間、豊能町役場を離れて行政の外部から見てきましたこと、考えてきましたことを補足させていただきながら私の「思い」を申し上げます。

## 1. ダイオキシン問題の完全終結

### ○ダイオキシン類汚染物の完全無害化処理

神戸市内に埋立処理されたダイオキシン類廃棄物は、今、2ヶ月間の期限付きで旧保育所跡地と役場本庁周辺の倉庫に保管されており、その量は約300トンで、持ち出したときの約10倍となっております。

一日も早くこの膨大な量の廃棄物を無害化処理し、完全終結することができるかどうか、来年町制40周年を迎える豊能町の将来を大きく左右します。

住民の不安や農業・観光等への風評被害などを完全に払拭するには、私は、以前から焼却・溶融による完全無害化しかないとして取り組んでまいりましたが、今もその信念に変わりはありません。

今後は、まず、保管期限が10月末となっている廃棄物の仮置き場をどうするかを具体的に決めていく必要がありますので、何をおいても最初に、これに着手しつつ、完全無害化処理に向けて国や大阪府に協力を仰ぎ、速やかに取り組んでまいりたいと考えております。

もちろん、そこに至るまでは紆余曲折様々なことを乗り越えていかなければならないことは明らかですが、政治生命を掛け全力で完全無害化に向け取り組んでまいります。また、取り組むそれぞれの過程においては、最後の最後まで住民の皆さまへの説明責任を果たしてまいりたいと考えているところでございます。

#### ○ダイオキシン類汚染物処理を巡る疑惑の徹底解明

この間のダイオキシン類汚染物の一連の処理に関して「不透明な処理方法の変更」や「見積書の偽造」など、あってはならない疑惑が出ています。しかしながら現時点では、そのほとんどが解明されていないのが現状です。これは由々しき状態です。住民の皆さまが納められた税金の使われ方を明確にするため、この際、早期に弁護士や学識経験者などからなる第三者による調査委員会を立上げ、問題の原因、責任の所在などを住民の皆さまに明らかにするとともに、再発防止

に向け取り組んでまいります。

## 2. 国・府・近隣自治体との連携強化

平成9年に町議会議員に初当選以来、前回の町長時代まで長きに渡り着々と築き上げてきました国や大阪府そして近隣自治体とのつながりは、今でも大きく生きております。ダイオキシン類汚染物の完全無害化や広域交通網の充実など様々な広域課題の解決のため、こうした市町村をはじめとする関係団体との信頼関係を取り戻すとともに、より一層連携を強化させてまいります。

## 3. 国道423号・477号の整備拡幅

本町には大阪京阪神と京都丹波舞鶴を結ぶ国道が、2本、南北に通っています。中でも、国道423号にあつては、途中、箕面市止々呂美地区で平成29年秋に開通が予定されている新たな国土軸となる新名神高速道路の（仮称）「箕面とどろみ」インターチェンジに接続する重要な役割を担う国道でありながら、一部地域で大型車両の離合ができない狭隘<sup>きょうあい</sup>な国道となっています。そのため、大阪府において災害時緊急輸送交通路の「特定広域緊急交通路」に指定されてい

るにも関わらず、その役割を十分に担うことができない状況となっています。さらには、国道が狭隘であるがために大型観光バス等に通行を敬遠されるため、豊能町を訪れる交流人口の増加にもつながりにくい状況となっています。

これまで幾度となく国に対して陳情活動をしてまいりましたが、大阪府・近隣市の協力が得られないとの理由で整備が進んできませんでした。新名神高速道路の開通を機に改めて、大阪府・箕面市・池田市の協力を得て、国道423号の拡幅と、また、併せて国道477号の川西地内の拡幅について国政への働きかけを再開したいと考えておりますので、議会の皆さまにもご協力をお願いいたします。

#### **4. 能勢電鉄ときわ台駅バリアフリー化と駅前整備**

ときわ台駅バリアフリー化については、前回の町長時代には能勢電鉄と勉強会を重ね、その実現に向け取り組んでまいりましたが、いまだに実現に至っていない現状にあります。4年前の経緯も踏まえつつ、高齢者や障害者にやさしいときわ台駅のバリアフリー化及び浄水場跡地も含めた駅前周辺の再整備・再開発の早期実現に向けて取り組んでまいります。

なお、その際、駅前駐輪場は地上化による無人化無料化を図ってまいります。

## 5. 学校教育の充実と中学校給食の改善

### ○教育のまち「とよの」の推進

教育は、本町にとってかけがえのない財産です。全国学力・学習状況調査においては、常に優秀な結果を保ち、教育の質の高さを表しています。

また、“地域で子どもたちを育む”ことを実践されている学校関係の様々なボランティアの方々の活躍の様子から、地域住民の教育への関心の高さは、本町の誇るべきものと自負するところです。

しかし残念ながら、近年、少子化の影響が少なからず児童生徒の活動に表れてきています。

現在、教育委員会が取り組んでいる小中一貫教育をさらに研究し、教育委員会とともに府内教育力ナンバーワンを目指して取り組んでまいります。

さらには、放課後にのびのびと語り合える児童生徒の居場所や学習の場は、子どもたちの成長にとって貴重なものとなっ

ています。今、教育委員会の進めている放課後の居場所づくりや中学校の自学自習の場である「まなび舎」の取り組みをさらに充実させてまいります。

### ○中学校給食の改善

平成26年4月から始まった中学校給食は、本年8月に出された平成27年度の報告書によると給食の残渣量は、①ごはん29.2% ②おかず40.8% ③汁物52.8%となっています。これは驚くべき数字であり、育ち盛りの中学生にとって健康面からみても大きな問題だと危惧しています。今後は、残渣をなくすために中学校給食については見直しも含めてそのあり方を検討し、給食の完食に向け取り組んでまいります。

## 6. 農業振興と道の駅構想

本町の地域産業は、農業が中心となっていますが、少子高齢化等により担い手不足が深刻化しており、耕作放棄地も増加傾向にあります。まちの魅力であり、重要な財産である農業を持続可能なかたちで活性化していくため、農業の法人化をはじめ、農産物の6次産業化・



ブランド化や販路拡大、新たな人材の発掘・育成に向けた取り組みを推進します。

耕作放棄地である遊休地対策が必要とされる状況の一方で、今、家庭菜園に取り組んでみたい人や、家庭菜園を生きがいとする人が増えています。そのため、そういった方々の内、主に熟年層向けに「熟年学習農園セミナー」を開設し、新たな農業の活性化にもつなげてまいります。

また同時に、10月1日にプレオープンした豊能町直売所「志野の里」の稼働状況を見据えた「道の駅」構想を本格化させてまいります。さらには、農業指導者を育成することによって、町全体の農業を活性化させていきたいと考えております。

## 7. 女性が活躍するまち

近年、女性の社会参加が活発化し、福祉や文化、教育などさまざまな分野において自ら学び、地域への社会貢献へと活躍の場を拓げていく女性が本町には少なくありません。

豊能町の将来ビジョン達成のためにも、新たな価値の創造が求められています。人材の多様化を推進するために、まず女性の活躍の推

進から取り組む必要があります。

特に、女性が出産を経ても引き続き働くことができるよう、子育て支援サービスの充実を図るとともに、仕事と家庭の両立に向けた取り組みや、就労および創業・起業に向けた支援を通じて、子育てをしながら働きやすい環境を整備することが重要と考えております。

そのため、女性活躍推進担当を配置するとともに、女性懇話会を設置して、女性が活躍できるよう進めてまいります。

## 8. オイスカを活かした国際交流の推進

現在、町内に研修施設を持つ「公益財団法人オイスカ関西研修センター」が主にアジアからの研修生を受け入れており、町内の保育所・幼稚園・こども園・小学校などとの交流やとよのまつり等への参加を通じ、住民との交流を図っています。

今、日本では海外からの交流人口の増加を図るため様々な取り組みが行われています。この機会に本町におきましても、大阪を訪れる海外からの旅行者の取り込みを図ることで、町内の交流人口を増やし、地域の活性化や観光PRにつながるよう取り組んでまいります。特に、吉川「花折街道」は本町の数少ない観光資源の一つとなってい

るため、街道沿いにある旧吉川中学校の木造校舎を利用したオイスカ関西研修センターの再構築をオイスカと連携して取り組むことで、国際交流のまちづくりと観光PRなどにつなげ、地域の活性化を図ってまいります。

また、本町の高山が生誕地であるキリシタン大名「高山右近」の列福にもスポットをあて、地域活性化・観光PRに取り組んでまいります。

## 9. その他の行政課題

### ○情報公開の徹底について

今回のダイオキシン類汚染物の処理を巡っての一連の動きをみても、議会及び住民の皆さまへの情報公開は極めて不十分なものであったと言わざるを得ない状況でした。行政と議会、住民の間で「隠しごと」があっては町の将来はないものと考えております。このため、今回の対応の反省も込めて、さらなる情報公開の徹底を図ってまいります。

### ○財政改革について

前回の町長時代は「財政再建に向け一直線」として、任期中の4年間で約23億円の効果を引き出し、財政健全化を図ったところですが、本町は今もなお、非常に厳しい財政運営を余儀なくされていることにかんがみ、町職員と一丸となり、新たな財政健全化プログラムを早期に策定し、財政改革に向け、取り組んでまいります。

### ○特別職等の人事について

副町長・教育長人事については、現在、欠員となっておりますが、これでは行政運営に支障をきたすことから、早期に人事を進めてまいります。併せて、豊能郡環境施設組合へは、大阪府に専門家の派遣を要請してまいります。

### ○町長の報酬・退職金について

町長の報酬及び退職金については、その報酬等が妥当であるかどうかを判断していただくために、第三者によります「報酬審議会」を設置して意見を仰ぎたいと考えております。

## 10. 最後に

豊能町は、大阪市内から1時間以内のエリアであり、箕面トンネルの開通によって車でのアクセスも便利になりました。都会に近くて豊かな自然や農村風景が広がっていることが、わが町豊能町の大きな魅力です。この空間を最大限に生かして、人が集まり、人が増えるような施策の必要性をじっくりと考え行動してまいります。

しかしながら、失われた信頼、傷ついた風評被害は一朝一夕で拭えるものではありません。「信頼回復」と一言で片づけられるものではないことも承知しております。私は愚鈍な人間であることも承知しています。しかし、77年前にこの地に生まれ、育てくれた、この豊能町が大好きです。この気持ちは誰にも絶対に負けません。この気持ちで議会と住民の皆さま方と、とことん話し合っ、小さいけれど“キラリ”と光るまちの未来を見つけ出していきたいと考えております。

そして、この傷ついた豊能町の風評被害を私が必ず払拭いたします。

私は、この豊能町が町長の交代によって変わらなければ、また、変えなければ明日の豊能町はない、との姿勢を強く打ち出してまいります。

生まれてきて良かったまち、育って良かったまち、そして住んで良かったまちをつくりたい、そんなまちづくりを議員の皆さま、住民の皆さまとともに進めていく決意でございます。

以上、これまで、つたない言葉ではございますが、具体的な公約に基づいて所信の一端を申し述べました。皆さまにはどうか私の意図するところをお汲み取りいただき、温かいご支援、力強いご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げ、所信表明といたします。

平成28年10月18日

豊能町長 池田 勇 夫